



片手間にしない

千葉は台風による被害もほとんどなく、ひと安心。小中学校ではまもなく前期の終業式、そして高校3年生は共通テストの出願を終えたところです。中学3年生はいよいよ高校受験に向けて3年間のまとめ教材に取り組み始めました。

さて前から気になっていたことなのですが、どうも問題を解く時の姿勢と成績とには相関関係があるのではないかと思えてきました。それも特に手の使い方です。日常生活はもちろん、楽器を弾いたり、スポーツをしたりするのももたいていは両手を使います。ギターを弾く時に左手でフレットを押さえ、右手で弦をつまびいて、はじめて曲になります。手を使わないサッカーでもスローインはもちろん両手、胸でトラップする時にも両手でバランスをとります。

ところが、テキスト・ノート・問題プリントに文字や数字を書き込むときに右利きの人は左手をだらん、左利きの人は右手をだらんと下げたままの人を見かけます。まあ、文字や数字は利き手だけで書こうと思えば書けますが、もう一方の手で紙を押さえてバランスをとらないと読みにくい字になってしまいます。案の定、自分で数字を見間違えての計算ミスが頻発します。中学2年生はちょうど数学で「一次関数」を勉強しているところ。その際、グラフに定規で直線を引くことがあります。それにはもちろん両手を使わざるを得ないのですが、なんだかぎこちなく座標の位置がずれてきたりします。手の置き場所だけでなく上半身が「だらん」としていると、本人が意識していなくても視野が狭くなります。そうすると、問題文や質問、図表や資料から必要な情報をインプットする際に見落としていることが多くなります。ゲームをする時には真剣になって画面の端々に目を凝らし両手をあんなに使っているのに、どうも勉強はいよいよ片手間にやっているように見えます。

でも中には学習することのおもしろさがわかってきて、本気で向き合い、姿勢が違ってくる人もいます。その過程に立ち会えると「猫背」の私もなぜか背筋がシャンとしてくる気がするのです。